



当院におけるがん地域連携パスの運用と コーディネーターの役割

平成23年10月2日
社会保険 中京病院
地域医療連携・相談室

がん連携パスの導入のメリット

患者

診療の明確化・標準化
待ち時間の短縮
通院時間の短縮
自己負担金軽減

連携医療機関

ファミリードクター
として役割拡大

がん診療連携拠点病院

外来負担軽減
紹介患者の増加



地域連携パス実施状況

【 連携医療機関数 】

胃がん	大腸がん	肝がん	乳がん	肺がん
18	16	14	4	3

医療機関 21施設

【 がん種別件数 】

胃がん	大腸がん	肝がん	乳がん	肺がん
9	3	3	4	1

当院の連携パス運用状況

〔胃がん、大腸がん〕

- ・連携先は紹介元の医療機関(Uターン)が優先
- ・紹介元医療機関がない場合は、患者の希望(自宅近く、職場近く等)を聞き、対応可能な医療機関をコーディネーターが紹介
- ・パス使用患者には手術後主治医から連携パスについて説明を受け、退院前に同意書記載
- ・新規連携医療機関は、外科部長が個別訪問し、連携パスの説明・同意を得る(訪問時の資料はコーディネーターが準備)



当院の連携パス運用状況

【乳がん】

- ・連携先は紹介元が優先(Uターン)

* 開放型病床を利用している医療機関との連携

- ・入院中に同意書記載

【肝がん】

- ・パス利用患者については主治医からの連絡

- ・連携先は紹介元

- ・連携医療機関については主治医が個別訪問し、運用説明



医療連携コーディネーター

医療連携コーディネーター機能：

医療者間の連携を調整する機能・役割が必要であり、連携構築に関わる医療者の負担増を防ぐ必要がある。また複数の医療者に関わる患者の不安や疑問に応え患者を身近に支える存在が必要である。すなわち医療連携コーディネーターのあい方を検討する必要がある。

(谷水正人)



医療連携コーディネーター機能には2種類ある

1. フレームワーク(枠組み)づくりのコーディネーター

- 協議会
- 仕組み、取組み、合意事項などの協議

2. 事例のコーディネーター

- 一例一例、個別の事例・症例のコーディネーションを行う。
- 事例を重ねることで、医療連携ネットワークを構築する。

(田城孝雄)



地域連携コーディネーターの役割

- **パス適用時のオリエンテーション**
- **診療計画の説明**
- **連携後も計画に基づいた診療が継続されること**
- **再発時は迅速に当院へ紹介されること**
- **連携先医療機関選定の助言**
- **再受診(再発)時の介入**



医療者間の調整

- 院内における医療者間との連携
 - 患者選定の時期
 - 院内スタッフに対する連携パスの理解の促進
- 連携先の医療者との連携
 - 定期的な勉強会・連携パス説明会・カンファレンスの実施
- 連携パスの理解を得ること
- 不安を解消すること



地域連携コーディネーター

地域連携コーディネーター

個々の患者に対する連携支援

- パス適用時のオリエンテーション
- 連携先医療機関選定の助言
- 再受診(再発)時の介入

地域連携マネジャー

地域連携システムのマネジメント

- 地域連携パス開発・運用の管理
- 連携ネットワークの構築と管理
- 患者中心の地域連携パスの研究



連携コーディネーターとしての看護師の役割

患者・家族のサポート

- 十分な情報提供と説明によりパスの理解を得る
- 患者・家族の相談にのる
- 医師へ思いを伝える

第一の相談役としていかなる場合も患者を支える

患者・医療者間の架け橋 医師の負担の軽減

- 患者の情報提供
- 患者・家族の思いを伝える
- 医師の説明の補足
- 継続診療に関わる連携を調整する



地域連携後の患者サポート

- 連携後の患者の思いを受け止める
 - 不安や困ったことはないか
 - 医療者の押し付けになっていなかったか
 - 結い日記の活用状況



私たち看護師は、連携コーディネーターとしての役割を果たすことを期待されている。

- **連携コーディネーターの役割は、患者が安心・安全な医療を受ける為にも大きく、連携パス運用の成否を握る。**
- **連携パスを利用する患者は当院でも連携先でも同じ医療の質が保証されなければならない。**
- **連携パスの運用においては、患者の声を聞きながら、ともにすすめていかなければならない。**



**患者に同意が得られなければ
連携パスは運用できない**



**患者説明を行う連携コーディネーター
の役割が重要**

**連携コーディネーターとないうる職種
看護師・MSW・事務**

**看護師→医療・看護
事務→社会資源の活用・費用**

**それぞれが得意分野を生
かして連携をする**



まとめ

がん連携パスは社会のニーズに応えるシステム作りのために推進されている、がん対策の一端



私たちコーディネーターもシステム作りを担う役割が期待されている



がん連携パスを道具に



私たちの知識やネットワークを広げていく必要がある